

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> 「自ら求め みがきあって高まる 学習の創造」に重点を置いて教育活動を計画する。 自分や他者の命を尊重する教育を、特別活動や道徳の授業、いじめを見逃さない日等の授業で推進する。振り返りを交流し、対話を重ねる中で、「生命の尊厳」への自覚と理解を深める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの考えを拾ったり、立場を明らかにさせて考えを進めたりする授業を仕組むことで、自らの学習状況を改善し、主体的に学習に取り組む児童が増えてきた。 約82%の児童が英語の授業が楽しみと感じており、進んで言語活動に取り組んでいる。表現も増えてきており、会話を楽しんでいる児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちはとても楽しそうに学習していて、活気もある。見ていると安心。 「いじめを見逃さない日」の同意の授業は、互いを認め合ったうえでの同意があるという意味でも、とても大切な内容の授業である。自分という存在は価値のあるものだとことをしっかり教えていくことや人とのつながりを大切にしていくことで、小さないじめもなくなっていいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思考を促したり、児童の考えを結びつけて新たな気づきを与えたりする発問やコーチングの在り方等を検討する必要がある。研究推進委員会や学年会等の会議で議論する場を積極的に設ける。 いじめを見逃さない日の取組を今年度同様大切にしながら、「生命の尊厳」への自覚と理解を深めていく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域の学校として、地域や保護者と連携した教育の充実を図る。(防災教育、読み聞かせ、クラブ活動) 中学校区の学校と「生徒会サミット」を実施し、共通認識のもとでいじめ防止に取り組む。地域の学校(長良特別支援学校、長良高校等)とも交流を深める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、PTA主催、長良東自治会連合会、長良東まちづくり協議会後援による、1泊2日の地域防災体験を行った。避難所での生活をイメージしたプログラムを実践することで、もしもの時に自分の命を守る方途や、家族や地域の方と連携して行動する大切さを学ぶことができた。 長良東地区3校で足並みを揃えて、いじめを防止する取組を推進することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA主催の防災イベントは、自治会連合会やその他の機関、すべての方の力があって実行することができた。地域との連携等様々な課題が浮かび上がったが、まず行ったことに意義があった。 「東長良サミット」では、3校それぞれのいじめ未然防止の活動を交流し、互いの学校の取組への理解を深める姿につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 人的リソースを有効に活用していく。学校だけでなく、保護者、地域の力を借りながら、子どもの学習環境を整備していく。教室等の施設面に留まらず、子どもの心を豊かにする教育活動も充実させていく。 いじめ未然防止研修の内容、そこで挙げた問題点等を中学校区の学校で共有することで、同じ思いでいじめ防止に取り組むようにする。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ICT(ロイノート、Teams、スマート連絡帳など)を効果的に活用し、児童と向き合う時間を確保する。 職員で情報を共有し、組織で対応する風通しのよい職員集団になるよう、日頃から互いに声をかけ合うことを大切にしている。 事務作業の効率化、下校時間を早めるなど行うことで、教員のゆとりを生み出す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「にっこりDay」を位置づけて、午後から職員が自己研鑽に励む時間を設けたり、事務作業、点検作業を見直し業務の効率化を図ったりするなど、快適に労働する環境を整えるよう努めることができた。 学年主任を中心に、一人で抱え込まない、学年職員皆で事にあたる雰囲気がある。職員が休みの時も「お互い様」の心で助け合い、気持ちよく働くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちはとても楽しそうに学習していて、活気もある。子ども達や先生方の様子を見ていると安心できる。 教師も子どもたちに笑顔で向き合っている。普通、授業を進めなくてはならないという思いが頭にあり、難しい表情を浮かべがちであるが、長良東小学校の教師はそうではなく、子ども目線で発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議や行事を見直したり、デジタルを効果的に活用したりすることで、勤務時間内に事務作業が進むようになり、心身ともに健康な状態で子どもと向き合うことができるようになる。 教職員も温かい関係の中でやりがいをもって働くことができるよう、ミドルリーダーを育て、若手の職員に寄り添いながら共に育つ「共育」を進めていく。
子どもたちが安心して学べる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人を信じ、人間として尊重してあたたかいまなざしで寄り添う。 いじめ、暴力など自分や他人を傷つける行為は断じて許さず、毅然として対応をする。 不登校傾向の児童について、保護者や関係機関と連携し、個に応じた学び方や学びの場を考えていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 時代が大きく変化し、多様性が増す子どもたち一人一人の力を伸ばしていく必要がある中で、やり方をアップデートさせて、子どもたちが伸びやかに学べる学校環境づくりに努めることができた。 不登校傾向の児童は年々減少傾向にある。保護者に学校の様子を丁寧にお伝えしたり、外部機関と連携したりしてきた営みが功を奏していると考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が子の学級は毎週席替えがある。その度にいろいろな子と関わる機会が生まれ、今まであまり話さなかった子と関わることでできてとてもよい。 子どもたちが「どう生きていくのか」ということを考え、生きる力を身に付けてほしい。決められたことをどう教えていくのか、わからない未来のことをどう教えていくのか、壁を破らないといけな。 	<ul style="list-style-type: none"> 共同生活なので一定の限界はあるものの、学校は何よりも知的に楽しい「学びの場」であるべきであり、個性や知的好奇心を伸ばすための教育環境を整えていく必要がある。 引き続き、保護者や関係機関と連携しながら、不登校(及び不登校傾向)の児童が安心して過ごすことができる居場所づくりに努める。
災害、事故に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルを1年間かけて見直し、児童の安全確保のために、有事の際に迅速に教職員が動ける。 全校児童が自治会の防災訓練に参加することを促し、地域の防災体制について学ぶとともに、地域の一員としてできることについて体験を通して考える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「命を守る訓練」を年間7回実施し、地震、火災、不審者等に備え、状況を正しく判断し素早く安全に避難することができた。 職員が連携を(児童の誘導や安全確認、初期消火、機器操作など)をはかり、子どもたちを迅速に非難させることに努めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事への参加が年々減っている現状である。特に20代30代の人の参加が少ない。小中学生も以前に比べて減っているように思う。 11月に行われたPTA主催の防災訓練については、地域にも関わる価値のある行事をしてくださったことに深く感謝している。このような地域と小学校PTAが連携していく活動をつくっていきたく願う。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害が起こった際に対応する教職員の諸係の対応(動き)に課題が残った。児童誘導、書類、医療機器の搬出、消火、救護、点検など、現状を把握しながら臨機応変に対応することが求められる。そのためにも、訓練を訓練とせず、実際の災害を具体的にイメージして行動できるよう、緊張感をもった訓練を積み重ね、その都度、改善点を明らかにしていく。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域と協同して、校舎、教室の環境整備を行い、生活しやすい環境を整える。 毎月の安全点検だけでなく、日頃から安全に対する意識を高め、校舎の老朽化に伴う危険箇所を早期に把握し、安全な環境を整える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校ボランティアの協力を得ながら、空き教室や資料室の整理整頓、子どもが活動する場所の整備を行うことができた。本校は教室の数が不足しているが、その甲斐子どもが学習するスペースを確保することができた。 教育施設課の協力を仰ぎながら、学校の設備を整備することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の工事の状況等を保護者に積極的に発信していることは今後も継続していけるとよい。 PTAボランティアに登録した保護者の数が立ち上げ当初より増えている。今後、子どもと保護者、教師、地域と協力しながら、学習環境を整える取組を進めていけるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要のないものは計画的に廃棄しながら、心理的に安心できるスペースを増やしていく。 開校50年が過ぎ、施設が老朽化している。財政的な面で市への協力を依頼するとともに、職員、校務員等で整備できるところは自力で整備していく。